

お祭りが郷土愛に与える影響についての調査

奈良 拓飛（文教大学情報学部メディア表現学科4年）

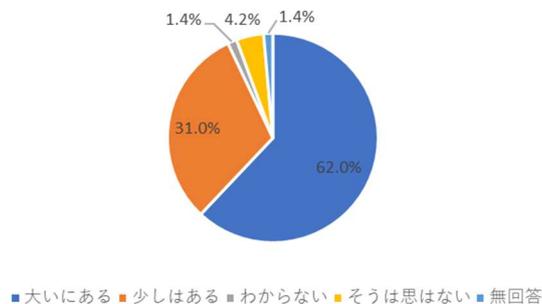
1章 はじめに

日本には、各地に「ねぶた祭り」や「YOSAKOI ソーラン祭り」など、多くのお祭りが存在している。

磯部氏による「祭りで地域のつながりは再生できるか」の研究結果からは、ねぶたのような伝統・規模の大きい祭りでは地域とのつながりも非常に強いことがわかっている（磯部ら、2013）（図表1）。また増山氏による「YOSAKOI ソーラン祭りの拡大に関する一考察」の研究結果から大規模なお祭りはテレビでの紹介などの影響で多くの人が知り、地域活性化につながるということがわかっている（増山、1999）。

図表1 地域活性化に繋がると思うか

学校で、ねぶたを制作し運行することは、地域活性化に繋がると思いますか



「祭りの実態調査2019 調査報告書」（CANPAN,2019）より、「祭りは高齢者も若い人も楽しむことができる」と回答した人が54%、「祭りは日本の観光において、重要な役割である」と回答した人が55%であった。このことから様々な人にとっても、日本の観光側面においてもお祭りの価値が高いことがわかる。年齢問わず様々な人にとっても楽しめるものであり、観光分野においても人を呼び込む役割を担うお祭りと郷土愛には深くつながりがあるのではないかと考えた。

欧米諸国では、地域への愛着を測定する尺度開発がおこなわれ信頼性・妥当性が明らかになっているものの、国や文化背景の影響から日本社会へそのまま導入することが難しいとされる（櫻井ら、2018）。また日本では各分野で地域への愛着に関する研究がされているもの

の、独自の尺度で測定されているため、日本社会の地域の愛着をどの程度測定できているか検証されていない現状があるという（櫻井ら、2018）。それらを踏まえ、滝澤らは、地域への愛着が主体的な健康づくり活動の推進要因であることに着眼し、健康づくり活動参加者が地域への愛着を形成するプロセスを検討したという（滝澤ら、2015）。その結果から、地域への愛着はその地域で暮らす生活と、人のつながりとの相互作用で思いが育まれ、健康づくりなどの活動のより地域の人々とのつながりが強められていく構造を見出したという。これに基づき、西日本の旧農村地域における健康づくり活動に結び付く地域への愛着を測定する尺度の開発が行われ、「地域への愛着 15 項目」が作られた。

都市郊外に居住するグループ活動に参加している高齢者においても、『地域への愛着 15 項目』のモデルは適合したとされている。このことから『地域への愛着 15 項目』は信頼性が高いといえる。

本研究ではこの尺度を活用して、お祭りが郷土愛に与える影響がどの程度あるか調査する。調査対象は文教大学の学生とする。お祭りとの郷土愛の関わりを明らかにすることで、お祭りを活用した地域活性化の具体的な取り組みの提案につなげる。

2章 調査研究の方法

2-1 調査概要

調査実施期間	2023年12月7日	講義内（メディア社会学、メディア効果論）
調査対象	文教大学湘南キャンパス在学1～4年生	
調査方法	集合調査	
調査人数	標本数124票	
有効回答数	回答数111票	回答率89.5%

2-2 調査項目

調査項目は、「回答者の基本属性」、「回答者のお祭りへの関心について」、「回答者の地域への愛着」の3つに構成した。以下は、項目詳細。

<回答者の基本属性>

「学部・学科」「性別」「学年」「住まい」「実家に住んでいた期間」「世帯員数」「実家の種類」「実家の市町村」

<回答者のお祭りへの関心>

「大規模・小規模のお祭りの参加頻度」「大規模・小規模のお祭りの参加理由」「お祭りの参加希望」等

<回答者の地域への愛着>

「地元への愛着」「地元のコミュニティ」「地元の居住性」「地元の環境」「地域への愛着15項目（櫻井ら、2018）」等

3章 調査結果

3-1 回答者の基本属性

回答者について「学部・学科」は【情報学部・メディア表現学科】が8割強（82.9%）で、「性別」は【男性】が5割弱（55名、49.5%）と最も高かった。「学年」は、【1年生】の割合（63名、56.8%）が最も高く、次いで【2年生】の割合（34名、30.6%）が高かった（図表2）。

図表2 基本属性-1

学部・学科

情報－社会	7	6.3%
情報－システム	12	10.8%
情報－メディア	92	82.9%
合計	111	100.0%

性別

男性	55	49.5%
女性	48	43.2%
その他	8	7.2%
合計	111	100.0%

学年

1年生	63	56.8%
2年生	34	30.6%
3年生	8	7.2%
4年生	6	5.4%
合計	111	100.0%

回答者について「住まい」は【実家暮らし】が6割弱（66名、59.5%）で、「住んでいる期間」は【10年以上】が7割弱（76名、68.5%）で、「実家の種類」は【持ち家が8割弱（88名、79.3%）で最も高かった。世帯員数は【4人】が5割弱（54名、48.6%）で最も高く、次いで【5人】、【3人】の割合がどちらも2割弱と高かった（図表3）。

図表3 基本属性-2

住まい

一人暮らし	41	36.9%
実家暮らし	66	59.5%
その他	4	3.6%
合計	111	100.0%

住んでいる期間

1年未満	14	12.6%
1～5年	12	10.8%
6年～10年	9	8.1%
10年以上	76	68.5%
合計	111	100.0%

実家の種類

持ち家	88	79.3%
賃貸住宅	16	14.4%
その他	3	2.7%
わからない	4	3.6%
合計	111	100.0%

世帯員数

1人	3	2.7%
2人	2	1.8%
3人	21	18.9%
4人	54	48.6%
5人	22	19.8%
6人	4	3.6%
7人	1	0.9%
8人	1	0.9%
無回答	3	2.7%
合計	111	100.0%

3-2 回答者のお祭りへの関心

3-2-1 お祭りに参加する頻度

回答者のお祭りの大規模・小規模の参加頻度について尋ねた。【1年に1回】がどちらとも約4割で最も高かった。また、【1年に数回】の項目では大規模（29名、26.1%）、小規模（14名、12.6%）の間に大きな差がみられた（図表4）。

図表4 お祭りに参加する頻度

大規模なお祭りに参加する頻度

1年に数回	29	26.1%
1年に1回	40	36.0%
2～3年に1回	14	12.6%
4～5年に1回	3	2.7%
6年以上前に参加した	13	11.7%
参加したことがない	12	10.8%
合計	111	100.0%

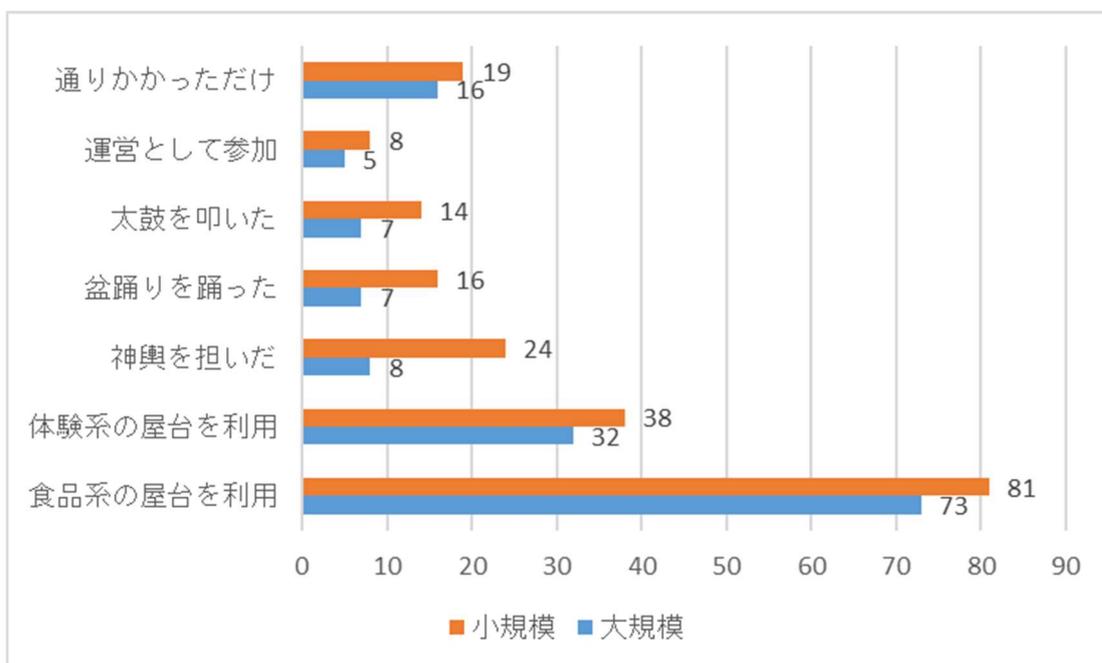
小規模なお祭りに参加する頻度

1年に数回	14	12.6%
1年に1回	45	40.5%
2～3年に1回	18	16.2%
4～5年に1回	3	2.7%
6年以上前に参加した	8	7.2%
参加したことがない	23	20.7%
合計	111	100.0%

3-2-2 お祭りで何を行ったか

回答者のお祭りの大規模・小規模で何を行ったか尋ねた。【食品系の屋台を利用】がどちらとも7割を超えて、最も高かった。また、【太鼓を叩いた】、【盆踊りを踊った】、【神輿を担いだ】の項目では大規模に比べ小規模の祭りの方が遥かに回答者は多かった。この結果から小規模の祭りの方が親密に関わる人が多いことがわかった。(図表5)

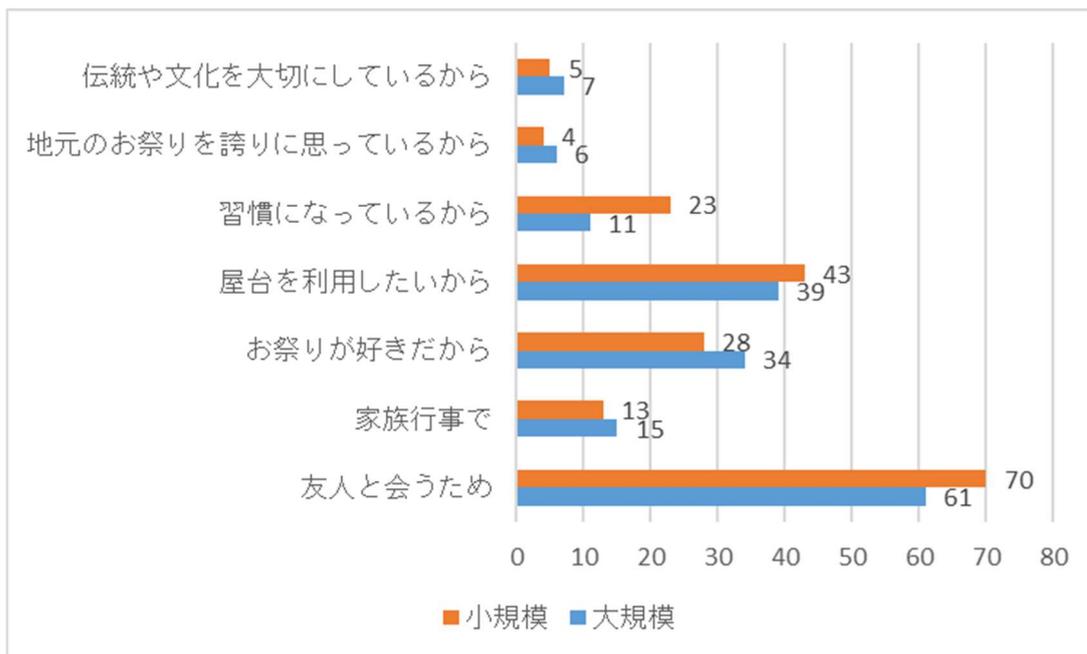
図表5 お祭りで何を行ったか



3-2-3 お祭りの参加理由

回答者のお祭りの大規模・小規模の参加理由について尋ねた。【友人と会うため】が大規模（61名 70.9%）、小規模（70名 74.5%）どちらも最も高かった。続いて、【屋台を利用したいから】が大規模（39名 45.3%）、小規模（43名 45.7%）であった（図表6）。

図表6 お祭りに参加する理由

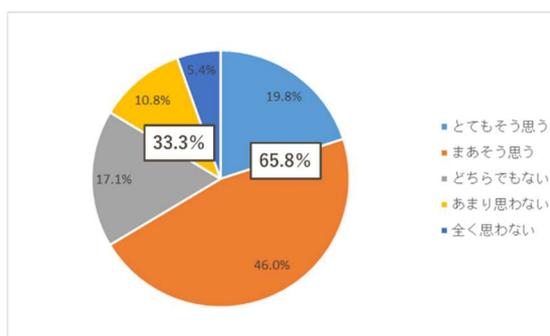


3-2-4 小規模なお祭りの参加意欲について

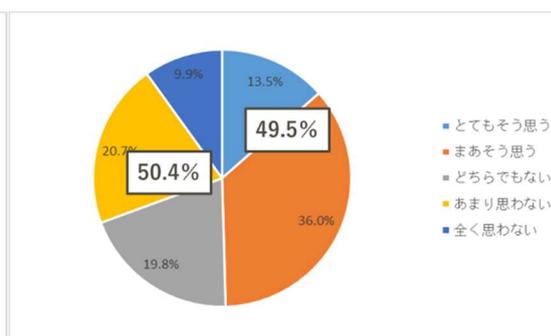
回答者の小規模なお祭りへの参加意欲について尋ねた。「今後、小規模なお祭りに参加したいか」の項目では、【とてもそう思う】と【まあそう思う】の合計（73名 65.8%）は6割を超える結果となった。一方で「地元以外の小規模なお祭りに参加したいか」の項目では、【とてもそう思う】と【まあそう思う】の合計（55名 49.5%）は5割程度であった。また、「今後、地元以外の小規模なお祭りに参加したい理由」を複数回答で尋ねたところ、【そこでしか味わえない楽しさがあるから】と回答した人（31名 33.0%）が約3割と最も高かった（図表7）。

図表7 小規模なお祭りの参加意欲について

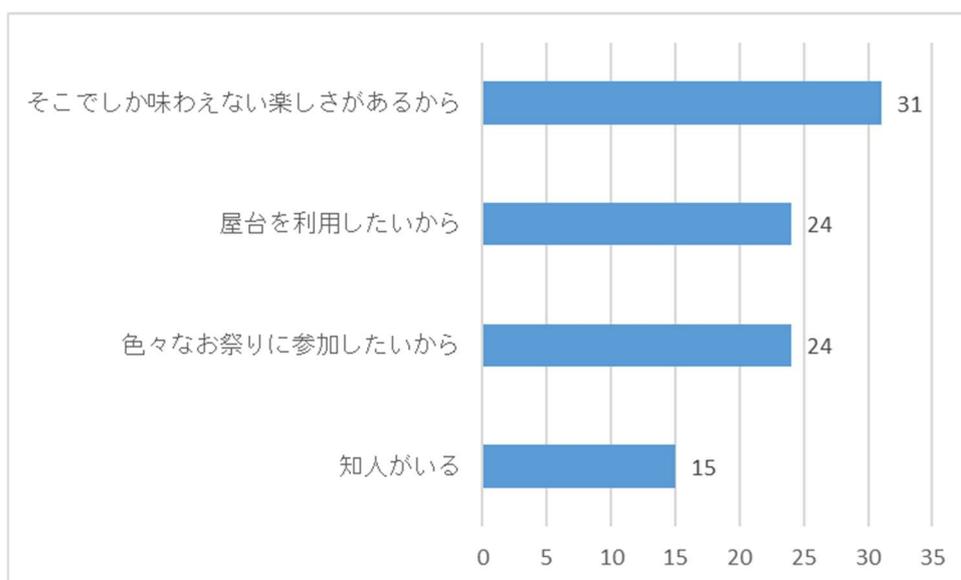
今後、小規模なお祭りに参加したいか



地元以外的小規模なお祭りに参加してみたいか



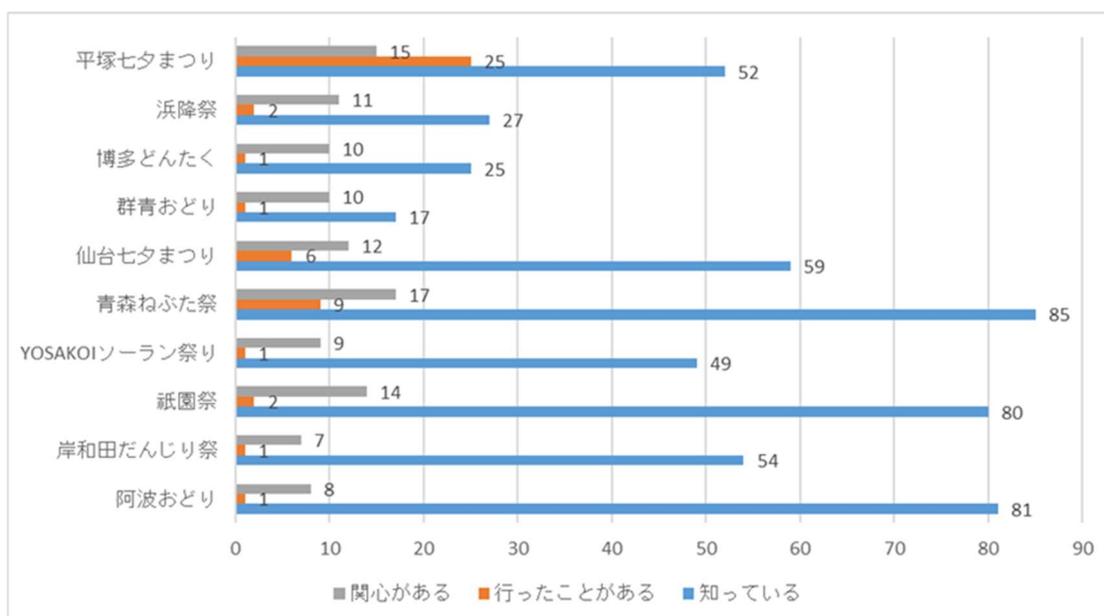
今後、地元以外的小規模なお祭りに参加したい理由



3-2-5 お祭りの現状

回答者に以下のお祭りは【知っている】、【行ったことがある】、【関心がある】か尋ねた。「青森ねぶた祭」、「祇園祭」、「阿波おどり」の3項目に関して、【知っている】と回答した人は8割を超えていた。また、茅ヶ崎市で調査したにも関わらず、「浜降祭」に【行ったことがある】と回答した人は2人（1.8%）と少なかった。全体的に認知度は高いが、関心や行ったことがあると回答した人は少なかった。しかし、「平塚七夕まつり」に【行ったことがある】と回答した人は他のお祭りに比べてはるかに高かった（図表8）。

図表8 お祭りの現状



3-3 回答者の地元について

アンケートでは、回答者の地元について、「コミュニティ」の観点からの設問（人間関係、挨拶の有無、地域住民との関わり）、「居住性」の観点からの設問（地元の住みやすさ、都心からの距離、交通の良さ）、「環境」の観点からの設問、「地元愛」の観点からの設問、計 11 問を設けた。

こうした項目は、地元との関わりが深い項目であるため、地元の「小規模なお祭り」の参加頻度と関連があるのではないかと考えた。そこで、一元配置の分散分析を行った。

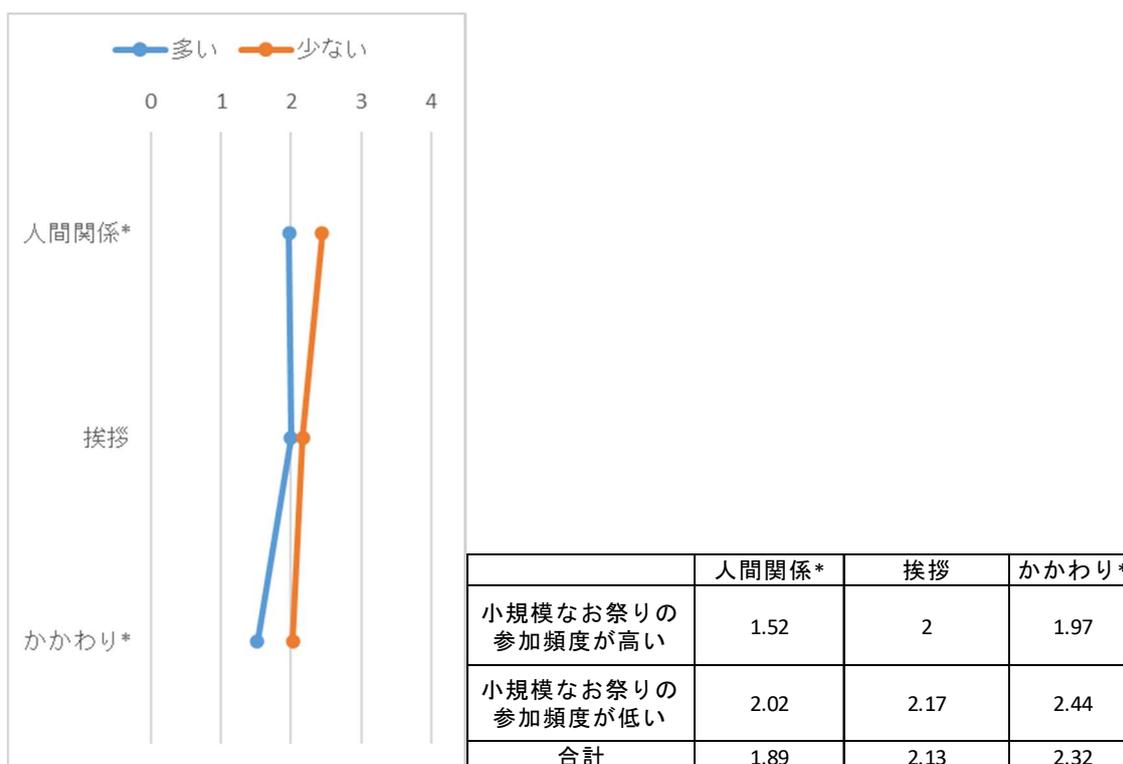
3-3-1 地元のコミュニティ

小規模なお祭りに参加する頻度と地元のコミュニティの関係について、4段階評価の平均得点を比較した（図表 9）。

小規模なお祭りの参加頻度は、【1年に数回】を「高い」、【1年に1回】、【2～3年に1回】、【4～5年に1回】、【6年以上前に参加した】、【参加したことがない】をまとめて「低い」と表現する。

「地元で人間関係を大事にしているか」(F(1,109) = 5.603, p < .05) と「地域の人とのかかわりがあるか」(F(1,109) = 4.117, p < .05) の2つの項目では小規模なお祭りの参加する頻度によって差があることがわかった。

図表 9 地元のコミュニティについて

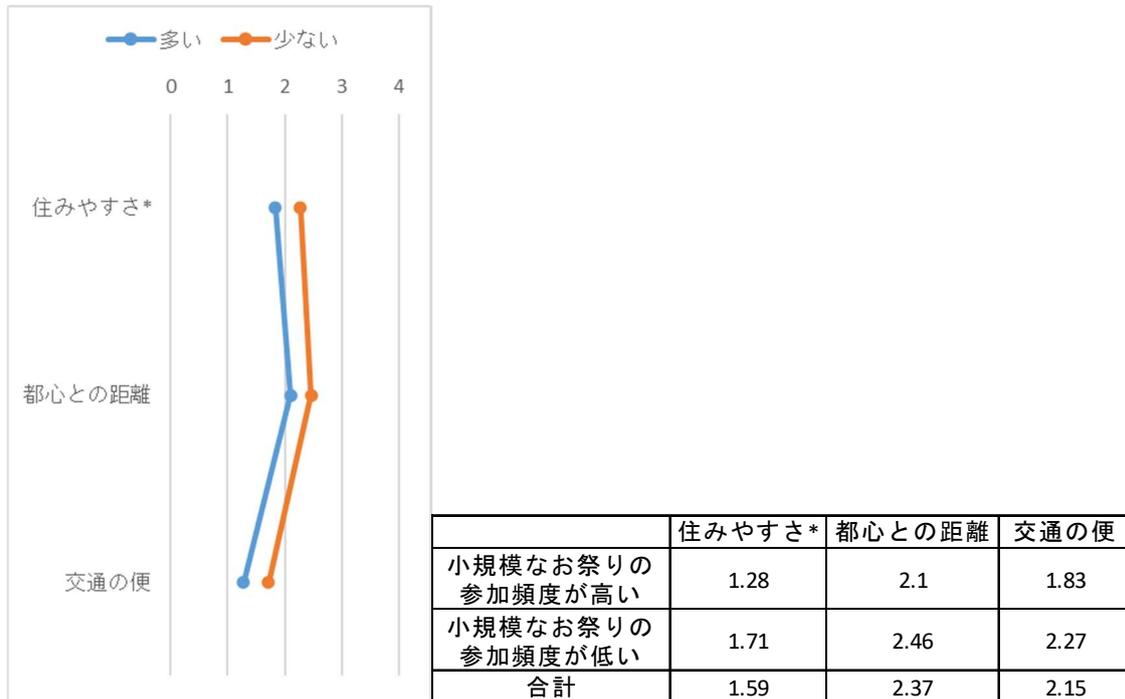


3-3-2 地元の居住性

小規模のお祭りに参加する頻度と地元の居住性の関係について、4段階評価の平均得点を比較した（図表10）。

「地元は住みやすい」（ $F(1,109) = 5.974, p < .05$ ）の項目では小規模なお祭りの参加する頻度によって差があることがわかった。

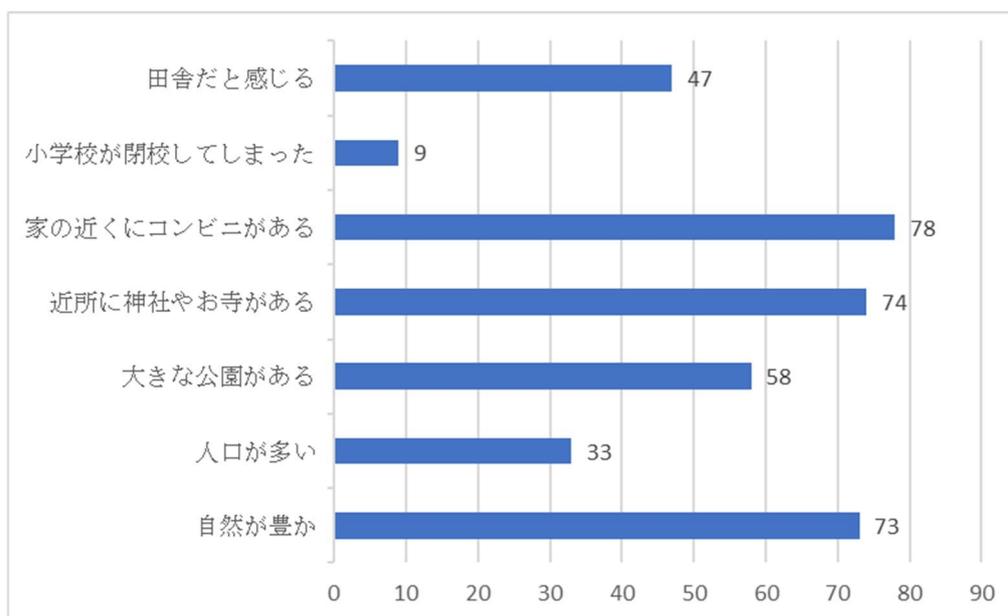
図表 10 地元の居住性



3-3-3 地元の環境

回答者の地元の環境について尋ねた。【家の近くにコンビニがある】が78名（70.3%）と最も多かった。続いて、【近所に神社やお寺がある】が74名（66.7%）、【自然が豊か】が73名（65.8%）であった（図表11）。

図表11 地元の環境について

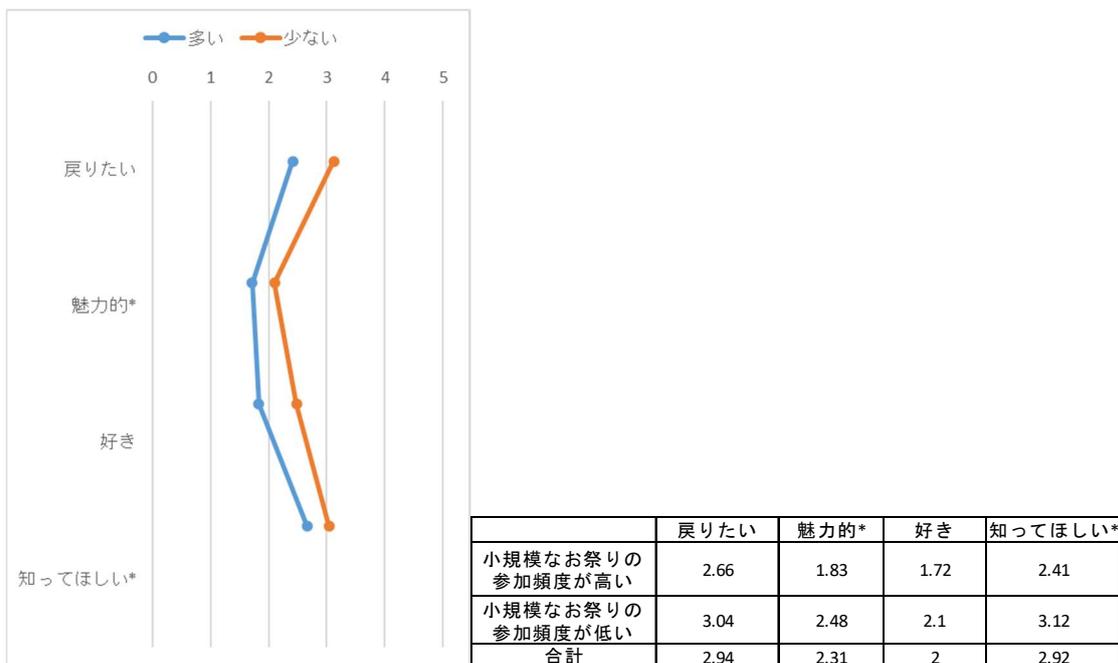


3-3-4 地元愛

小規模のお祭りに参加する頻度と地元愛の関係について、5段階評価の平均得点を比較した（図表 12）。

「地元が魅力的」（ $F(1,109) = 9.559, p < .01$ ）、「地元を知ってほしい」（ $F(1,109) = 6.486, p < .05$ ）の項目では小規模なお祭りの参加する頻度によって差があることがわかった。

図表 12 地元愛について



3-4 回答者のお祭りに参加する頻度のクロス集計

大規模・小規模のお祭りに参加する頻度の関係をクロス集計した。大規模なお祭りに参加する頻度が高い人で小規模なお祭りにも参加する頻度が高い人は10名(34.5%)であった。カイ二乗検定の結果、大規模なお祭りに参加する頻度の高さと小規模なお祭りの参加頻度には有意な差がみられた(図表13)。

図表13 お祭りに参加する頻度のクロス集計

		大規模参加頻度		合計
		良く参加する	あまり参加しない	
小規模参加頻度	良く参加する	10(34.5)	19(65.5)	29(26.1)
	あまり参加しない	4(4.9)	78(95.1)	82(73.9)
合計		14(12.6)	97(87.4)	111(100.0)

() 内は割合

$\chi^2(1) = 3.66, P < .001$

3-5 地域への愛着の因子分析

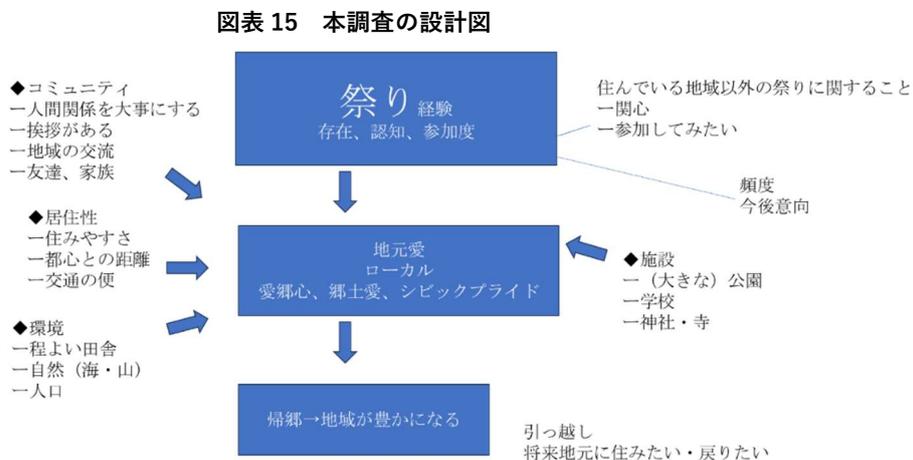
櫻井らが書いた「地域への愛着を測定する尺度の開発」から地域への愛着に関する15項目を5段階評価で尋ねた。出力された結果がどのような因子に分けられるか、バリマックス回転を用いて因子分析を行った。その結果、図表10のように3つの因子に分類することができた。第一因子には、「近隣の人は良い意味で気にかけて関係だ」「近隣の人は助け合えるという感じをもっている」「地域の人とは、心が通じ合う安堵感がある」といった近所の人との交流という要素が含まれているため、【かけがえのない地域】と名付けた。第二因子には、「地域のことをいろんな人に知ってほしい」「心の中に浮かぶこの地域の良いところを残しておきたい」「この地域の歴史や文化に誇りを思う」といった地元を誇りに思う要素が伺えたため【地域を誇りに思う】、第三因子には「この地域は、慣れたところで住みやすい」「車で15分程度の範囲で生活が完結できて住みやすい」といった、居住性のような要素が含まれているため【住みやすい地域】と名付けた（図表14）。

図表 14 地元への愛着

	かけがえのない地域	地域を誇りに思う	住みやすい地域
近隣の人は良い意味で気にかけて関係だ	0.81	0.242	-0.069
近隣の人は助け合えるという感じをもっている	0.791	0.259	-0.095
地域の人とは、心が通じ合う安堵感がある	0.77	0.339	0.082
顔を見たら、どこのだれか大方分かる安心感がある	0.751	0.144	-0.138
この地域の中にいると落ち着く	0.686	0.027	0.484
地域の人との交流が元気のもとだ	0.609	0.478	-0.131
自分にとって「かけがえのない地域」だ	0.581	0.322	0.382
地域のことをいろんな人に知ってほしい	0.185	0.788	0.055
心の中に浮かぶ「この地域の良いところ」を残しておきたい	0.373	0.723	0.054
この地域の歴史や文化に誇りを思う	0.105	0.7	0.113
これからも住み続けることを考えて必要なことを準備する地域や、地域の人々に役立つことをしたい	0.505	0.653	0.006
地域や、地域の人々に役立つことをしたい	0.496	0.596	-0.148
この地域以外のところに住もうとは思わない	0.083	0.526	0.253
この地域は、慣れたところで住みやすい	0.085	0.127	0.82
車で15分程度の範囲で生活が完結できて住みやすい	-0.251	0.056	0.697
固有値	4.381	3.307	1.699
寄与率	29.208	22.045	11.329
累積寄与率			62.581

3-6 重回帰分析を用いた結果

本調査の調査票は、以下のような設計で作られている（図表 15）。



この設計図で示されているように、コミュニティや居住性、環境に関する要素が、お祭りへの参加行動に影響を及ぼし、それが「帰郷希望」や「地元愛」につながると考え、それが実際に検証できるか、以下のような分析を行った。

「帰郷希望」（将来地元に戻りたい、住み続けたいか）に影響を及ぼす要因を探索するために、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。独立変数として、コミュニティに関する項目3点（人間関係、近所に挨拶、地域との関わり）、居住性に関する項目3点（住みやすさ、都心との距離、交通の便）、環境に関する項目7点（自然、人口、近所に大きな公園はあるか、近所に神社や寺はあるか、近所にコンビニはあるか、小学校が閉校してしまった、田舎だと感じる）、大規模・小規模のお祭りに参加する頻度、地元愛の因子3点を投入した。その結果「帰郷希望」に効いているのは「地元愛」（地元は好きか）と「環境」（自然が豊か）と「お祭りの参加頻度」（小規模のお祭りには6年以上前に参加した）の3点であった（図表 16）。

つまり、地元が好きな人は帰郷希望が高いことがわかった。また、幼少期に地元とのかかわりが深いほど、地元に対する愛が強く地元に戻りたい人が多いこともわかった。

図表 16 地元への愛着

	標準化β
地元愛(地元は好きか)	0.454
環境(自然が豊か)	0.174
お祭りの参加頻度 (小規模のお祭りには6年以上前に参加した)	0.176
R2=0.28	

4章 考察

大学生の地元愛とお祭りについて調査しその分析をした。

まず、大規模・小規模なお祭りに参加する頻度は【1年に1回】と回答した人が最も多く、【1年に数回】の項目では大規模は2割以上、小規模は1割程度と大きな差がみられた。

調査結果からお祭りと郷土愛には、深いかわりがないことが明らかになった。しかしながら、町おこしとしてお祭りが行われている点や、お祭りを開催することで多くの人が集まる点から、お祭りが人に求められる理由として郷土愛とは異なる要因があるのではないかと考える。また地元に戻りたい・住み続けたいと考えている人には、「6年前はお祭りに参加していた」という傾向がみられた点から、地元に住んでいるときや実家にいるとき等、比較的幼少期に地元とのかかわりが深いほど、地元に対する愛が強く地元に戻りたい人が多いのではないかと考える。そのため、幼い時にお祭りに多く参加したり、幼い時でも参加しやすい行事を行うことで、郷土愛を持つ人が多くなり、将来的に地元に戻る人が多くなるのではないかと考える。

調査を通して帰郷希望には幼少期の経験が影響すると感じた。今後の調査では幼少期の経験を調査し、現在における地元愛やお祭りに対する認識についてどのように関わっているかを調査する必要があると感じた。

5章 参考文献

磯部大輔、小川和也、静谷佳美、武居礼夏、柳橋ひとみ（2013）「祭りて地域のつながりは再生できるか」 I S F J 政策フォーラム

櫻井尚子、滝澤寛子、渡部月子、星旦二（2018）「地域への愛着を測定する尺度の開発 一都市郊外のグループ活動に参加している高齢者における検討一」第 35 卷 1 号、社会医学研究出版

滝澤寛子、櫻井尚子（2015）「健康づくり活動参加者が地域への愛着を形成するプロセス-西日本農村地地域の向老期から前期高齢者を対象に-第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集.p207

立田健太、大谷良光、大野絵美（2009）「青森ねぶた運行団体と子ども・学校との関わりの実際 ～大型・子ども・地域ねぶた運行団体を対象とした調査～」第 102 号、弘前大学教育学部紀要

増山尚美（1999）「YOSAKOI ソーラン祭りの拡大に関する一考察」第 36 号、北海道女子大学短期大学部研究紀要